

「寝具」の衛生管理のポイント

お布団は気持ちいいけれど

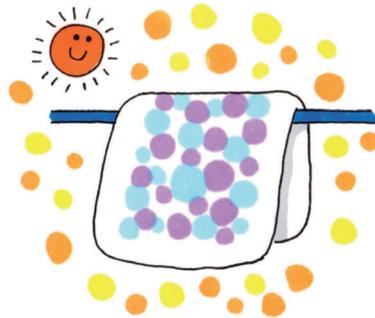
ぬくぬくのお布団に包まれている時って、気持ち良いですよ。ね。布で出来ている気持ちの良いその環境は体にとって健康的な環境でしようか？ 私達は布団に毎日コップ一杯分の汗を積み込ませて使っています。衣類も毎日身に着けている布ですが、清潔に保つために、インナーからアウターまで、頻度の違いはあれど、ご家庭の洗濯機やクリーニング屋さんで依頼して、衛生的に保っていますよね。

寝具の衛生管理 大丈夫？

このレポートでは、毎日取り替え難いお布団の衛生管理について少し考えてみましょう。まず最初に、ご自宅で行っている寝具などの衛生管理について。シーツやカバー類は洗濯機で洗濯。布団の湿度を落とすには天日干しや布団乾燥機を使用。布団の埃やダニを払うのは布団叩きや掃除機掛けです。よね。ご自宅で頻度高く出来るこれらのメンテナンスはとても重要です。

ところがこれらの方法だけでは、ぜん息のもとダニ・カビを抑制は出来てもこれらの餌となる汗に含まれた皮脂汚れや油脂を布団から除去できません。家庭用洗濯機は

衣類を対象に作られたもので、カバー類までは洗えたとしても、毛布などは洗濯機に入っても、ギョチリ畳んで入れますので、ダニや埃を洗い流すには限界があります。



布団の洗濯の際、ドライクリーニングには注意が必要！

そこで2つ目はクリーニングについて。布団もご自宅で洗えない衣類同様クリーニング店へ。では、ご自宅のお洗濯とクリーニング店との洗い方の違いは何でしょう？ クリーニング屋さんもご家庭と同じように「水」を使うウエットとランドリーの他に、ドライ溶液と言った油を使うドライがあります。通常、スーツやおしゃれ着はドライクリーニング指定になっていますので、その様になさっていると思います。ところが、ドライク

リーニングは、型崩れ防止や油汚れ除去には適していますが、私達の体から出る皮脂汚れタンパク汚れには、不向きなものです。また、しっかりと乾燥してドライ溶液を揮発除去出来ない化学やけどを起すというデメリットもあります。

3つのキーワード

わたと言った中身のある布団には、汚れを落とすにもリスク的にも、水洗いが良いということに成りません。これらを考慮すると、汚れやダニを洗い流す大量の「水」と、羊毛布団など型崩れを起こさせない「布団専用大型洗濯機」そしてもう一つ、「温度」がキーワードになります。

素材に対しての知識がとても大事！

タンパク汚れは水温を上げると、除去し易くなる反面、羊毛や羽毛などは、温度が高くなると壊れてしまいます。そして、仕上げの乾燥ですが、温度が高い程消毒にはなりますが、こちらも化学繊維など高温に弱い素材の製品は壊れてしまいます。素材の「知識と技術力」が一番肝心と言えるでしょう。ぜん息予防に大切お布団のメンテナンス。知識と技術と設備を持った業者を探す時には、これらのキーワードを質問するのも良いかもしれません。使用頻度やダニの繁殖量を踏まえると、1年に1〜2度のお布団の丸洗いをおすすめ致します。

